



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

## No War In Ukraine

校長 永浜 裕之

シェークスピアの劇では、格調高いセリフが次々に飛び交います。この点をついたジョークがイギリスにあります。観劇を終えた人が同伴した友人に、「どんな物語かと思ったら、諺（ことわざ）ばかりじゃないか」と呟きます。シェークスピアが人間の深部を覗いて紡いだ言葉が、後に諺や格言になったことを知らない、教養の低さを装ったジョークです。

米国のボルトン前大統領補佐官の回顧録には、米国の前大統領が外交の席上、「フィンランドはロシアの一部か」、「イギリスは核保有国なのか」と質問することがあったと記されています。人々を導くリーダーは、高い見識の上で最良の判断をしてほしいと感じますが、老獪なプーチン大統領のウクライナ侵略の判断は驚きです。こうしている間にも両国民の間に犠牲が広がっている現状を鑑みると、一日も早い終戦を願うばかりです。

ウクライナ危機ではロシアは侵略者となり、西側諸国の厳しい制裁を招いています。G7各国は、ウクライナ危機をめぐり、民主主義と権威主義の相克（そうこく）の構図を描いていますが、インド、インドネシア、南アフリカ、チリなど、多くの民主主義国家は、対露制裁に加わず、距離を置いています。

**私は、ウクライナを支援すべきだと強く思いますが、生徒の皆さんには、多様な視点で物事を考えてほしいという思いから、一方的な勧善懲悪の報道とは異なる視点で、今回の学校だよりを書きます。**

さて、今の危機の起点は、1991年末のソビエト社会主義共和国連邦の崩壊です。ソ連は15の国に分裂し、ソ連時代の行政区画が国境に変わりました。ソ連ではロシア人は支配する側でしたが、ロシアを除き、14の国に分散したロシア人は民族的少数派となり、支配される側になりました。プーチン氏は、ロシアに接するウクライナ東部ドンパス地方のロシア人開放を掲げて侵攻をはじめたのです。

侵攻のニュースを聞いた時私は、東欧の多民族国家「ユーゴスラヴィア連邦」崩壊の原因となったユーゴスラヴィア内戦（ユーゴ内戦）を思い出しました。1991～95年のユーゴ内戦は、第2次世界大戦後の欧州では「もはや戦争は起きない」と信じていただけに衝撃でした。

1990年、ユーゴスラヴィア連邦を構成する6つの共和国で選挙が実施され、スロヴェニア、クロアチア、マケドニア、ボスニア＝ヘルツェゴヴィナで民族主義政党が勝利して独立を支持し、セルビアとモンテネグロは連邦維持を訴えます。共和国間の会議では合意できず、2陣営に分かれて内戦が始まりました。

問題を複雑かつ深刻にしたのは、独立を宣言した各共和国が単一民族ではなく、内部に少数民族を含んでいたり、複数の民族で構成されていたりしたことです。クロアチアはクロアチア人の多数派以外にセルビア人が存在し、ボスニア＝ヘルツェゴヴィナは、セルビア人、クロアチア人、ムスリム人の三勢力が拮抗したりなど、多様な状態です。

最も錯綜した紛争は、セルビア共和国コソボ自治州で勃発した、支配する側の少数民族セルビア人勢力と、支配される側の多数派アルバニア人勢力の戦争です。西欧は仲介に努めますが解決できず、米国に介入を乞い、米軍主導のNATO（北大西洋条約機構）軍のセルビア空爆により、コソボ独立に道が開かれます。このとき米欧は、民族的・宗教的にセルビアに近いロシアと連携して、和平を構築しようとしませんでした。ロシアは蚊帳の外に置かれたのです。

ロシアはウクライナを攻撃し、ロシア人勢力の独立を叫んでいます。識者の中には、ユーゴ内戦と比較して、ロシアを米欧、ウクライナをセルビア、ロシア人勢力をコソボと置き換えて論じる人もいます。

ロシア国外には2,500万人のロシア人が暮らしています。現状を鑑みると可能性は低いものの、旧ソ連圏に多く暮らすロシア人の擁護を理由に、ウクライナ危機が飛び火する可能性はゼロではありません。

人類は大戦の惨禍を経て、世界平和実現のために国際連盟、国際連合を作りました。第1次世界大戦後の国際連盟は、提唱国の米国が参加せず、植民地帝国と呼ばれていた英仏日伊が常任理事国となり、日伊の脱退もあり短命に終わりました。第2次世界大戦後の国際連合は戦勝国が常任理事国で、十分に機能しているとは言い難い現状です。世界平和は訪れず、戦争はなくなっていない。

ウクライナ侵略戦争は起きてしまいました。

欧州は、危機の拡大を避けるためにも、地域大国であるロシアを包摂し、その主張にも耳を傾けて和平を進めるしか現実的な解決方法はないような気がします。人々が安心して暮らせる日が訪れることを心より祈っています。

私は2022年の3月から8ヶ月間、「次世代リーダー育成道場」という東京都教育委員会主催のプログラムに参加し、オーストラリアに留学していました。次世代リーダー育成道場は、事前研修で様々なことを学び、その成果を携え、留学にチャレンジする都立高校生を支援するプログラムです。日本や世界の将来を担い、様々な分野で活躍する次世代のリーダーたちを育てる試みです。私は、高校1年目の春、次世代リーダー育成道場の説明会に行き、初めて留学という選択肢を考え始めました。しかし、新生活に慣れ始めたばかりの私にとって、留学はまた一からやり直すことを意味し、ハードルが高いと感じていました。

それから一年ほど経ち、新型コロナウイルスが猛威を振るっていた頃、私は「ハンナ・モンタナ」というドラマに出会いました。海外に住む主人公たちの、常に正直で、他人にどう思われようと気にしない姿に憧れを抱くようになりました。それから海外のドラマをよく見るようになり、海外の文化に興味を持つようになったと同時に、ここではないどこかへ飛び込んで、新しい自分に生まれ変わりたいと思うようになりました。

また、私は唯一、続けた習い事として、日本舞踊を小学校一年生の時から習っていたので、日本舞踊を活かせないかと考え調べたところ、オーストラリアのアボリジナルの方々和日本舞踊がコラボレーションしたという記事を見つけました。その時からオーストラリアの文化・歴史に興味を持ち、留学してみたいと思うようになり、直接海外へ行って、日本の文化を伝えたいと思うようになりました。

そして高校2年目の夏、掲示板に次世代リーダー育成道場のポスターが貼ってあるのを見つけました。私はこれしかないと思い、急いで英語科の職員室へ行きました。次世代リーダー育成道場は学校推薦を経て筆記試験と面接の選考を通った生徒だけが参加できるプログラムであり、英検準2級相当の英語力が必要だったため、何の資格も持っていない私は当然受からないだろうと諦めかけていましたが、このままでは何も変わらないと感じ、英検準2級を取得することから始めることにしました。先生に英検を取りたいという旨を説明すると、英語科の先生がALTの先生を紹介して下さいました。ALTの先生は毎週昼休みにマンツーマンで英語を教えて下さいました。会話は全て英語でしたが、私の英語が拙くても優しく丁寧に教えてくれ、そしていつも良いところを褒めて下さいました。ALTの先生のおかげで、英語に対する苦手意識や、外国への恐怖心がなくなりました。小論文の練習や面接など、担任の先生や英語科の先生、副校長先生などが親身に助けて下さいました。出願期限も間近だったため、多くの先生が私のため動いて下さいました。しかし、英検準2級の試験日が次世代リーダー育成道場の試験日より遅かったため、無資格で次世代の試験を受けることになりました。何故留学を志望したのか、何故次世代リーダー育成道場でなくてはならないのか、それだけを一生懸命、面接官に伝えました。帰りは落ちたと思って泣いていたことを覚えています。

結果は合格でしたが、新型コロナウイルスの影響で、留学は中止になってしまいました。しかし、留学は不可能だったけれど、私の周りには親切で素晴らしい人が沢山いることを知りました。私はこれまでしてこなかったことにチャレンジし、色々な人々と関わって、自主的に動けるようになり、物怖じしなくなりました。私は一年後、英検2級を取得し、次世代リーダー育成道場の試験を受け直し、10期生としてオーストラリア留学をすることができました。次世代リーダー育成道場でオーストラリアに留学したことで、同じ夢を持つ同世代の友達や外国の友達が沢山できましたし、異文化の中で生活することでアイデンティティや広い価値観を身につけることができました。日本舞踊を通して生徒と交流することもできましたし、そして、ドラマのクラスを通して、もっと舞台の世界を勉強したいという夢も見つけました。

もし私が、山吹の生徒で無かったらこんな素晴らしい人々や世界に出会えていなかったですし、自分の未来をこんなに自由に考えられていなかったと思います。今見ている世界だけが全てではない、例えそこで絶望していても、パラダイスはいつもすぐそばにあると、私は信じています。今後も今だからこそできることに沢山挑戦していきたいです。



オーストラリアでできた友達

**定時制課程 学校行事予定**

- 12月22日(木) 学校説明会(個別相談)  
履修個別指導
- 23日(金) 全校集会、卒業予定者連絡会
- 26日(月) 冬季休業日(始)
- 1月10日(火) 授業開始
- 12日(木) 避難訓練
- 13日(金) 自己探索学習⑧
- 25日(水) 午前授業(午後、入選準備)
- 26日(木) 入学者選抜(生徒登校禁止)

**通信制課程 学校行事予定**

- 12月24日(土) スクーリング2-11
- 26日(月) 冬季休業日(始)
- 1月14日(土) スクーリング2-12
- 21日(土) 後期試験 1日目
- 28日(土) 後期試験 2日目
- 2月4日(土) 後期試験 3日目
- 18日(土) 生徒相談日
- 25日(土) 生徒相談日
- 3月4日(土) 生徒相談日